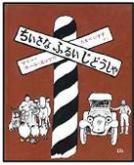


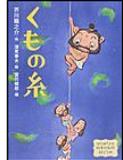


しょうがっこうていがくねん《1・2年生》のみなさんへ

ふゆ休みおすすめ本リスト

登別市立図書館 [2018年版]

	しょめい さくしゃめい しゅっぱんしゃ	ないよう
えほん	<p>「ちいさなふるいじどうしゃ」</p>  <p>マリー・ホール・エッツ 作 たなべ いすず 訳 富山房</p>	<p>うんてんしゅさんの言うことをきかずに、一人であつてにはしりだした小さなふるいじどうしゃは、とちゅうで出あういろいろなどぶつやにんげんを、はねとばしてすすんでいきます。そして、黒いきかんしゃにあつたとき…。</p>
えほん	<p>「ぼくは、チューズデー」</p>  <p>介助犬チューズデーのいちにち イス・カルロス・モンタルパン 文 プレット・ウィッター 共著 ダン・ディオ 写真 おびか ゆうこ 訳 ほるぶ出版</p>	<p>せんそうでけがをして、まえとおなじくらしがでなくなつたルイス。そんなルイスといっしょにでかけたり、たすけてくれたのが、介助犬(かいじょけん)チューズデーでした。介助犬のしごとがわかる、しゃしんえほんです。</p>
えほん	<p>「いもうとかいぎ」</p>  <p>石黒 亜矢子 作 ビリケン出版</p>	<p>ねえねは何でも「だめだめだ一め」と言つて、じぶんだけ大きいおやつを食べたり、じぶんだけあそびにいっちゃつたり、いもうとたちはいつも「ずるい」と思つています。ねえねをはんせいさせるために、いもうとたちはあつまつて、かいぎをひらくことにしましたが…。</p>
えほん	<p>「たかのびょういんのでんちゃん」</p>  <p>菅野 博子 文・絵 高野 已保 原案 岩崎書店</p>	<p>はつでんきのでんちゃんは、ていでんのときにでんきを作るため、たかのびょういんにきました。でもでんきが止まることなつて、ほとんどなかつたので、でんちゃんもすっかり古くなつていきました。そんなある日、おおきなじしんがきて、びょういんのでんきがぜんぶ止まつてしまいました。</p>
えほん	<p>「おかしなゆき ふしぎなこおり」</p>  <p>片平 孝 写真・文 ポプラ社</p>	<p>ふゆのよる、しんしんとゆきがふりつもり、あさになるとつめたい空気と水が、おかしなかたちのゆきやこおりをあつちこつちにつくつていきます。だいはくりよくなゆきとこおりのせかいをしゃしんで見ることがができます。</p>

	しょめい さくしゃめい しゅっぱんしゃ	ないよう
としょ	<p>「とうふやのかんこちゃん」</p>  <p>吉田 道子 文 小林 系 絵 福音館書店</p>	<p>かんこちゃんは、とうふやの子どもです。とうふのあじはおいしいのに、おきやくさんが少ないから「もっともっと、おきやくさんがこないかなあ」といつも思つています。そんなお店に、2ひきのキツネがやつてきて…。おいしそうなおとうふと、あたたかさのみちたかぞくのものごたひです。</p>
としょ	<p>「てんこうせいはワニだった!」</p>  <p>おの りえん 作・絵 こぐま社</p>	<p>ある日、オースケのいる1年2組にワニのてんこうせいがやつてきました。うまくイスにすわれなかつたり、えんぴつをにぎれなかつたり、きゅうしょくをおさらごとぜんぶ食べちゃいそうになつたり。ワニくんと一日はたいへん、でもまいにちものすごーくたのしい!</p>
としょ	<p>「町のゆきだるまのはなし」</p>  <p>たかどの ほうこ 作 本庄 ひさ子 絵 佼成出版社</p>	<p>町を見ているのが大すきなゆきだるまには、もっと大すきなことがありました。それはどこからかながれてくる、ピアノの音をきくことでした。そんなゆきだるまにおてがみがとどきました。</p>
としょ	<p>「しょうぼうしよは大いそがし」</p>  <p>ハネス・ヒュットナー 作 ゲルハルト・ラル 絵 たかはし ふみこ 訳 徳間書店</p>	<p>しょくん、きんきゅうしゅつどうだ! まちにまつたおやつの時間も、かじやじこがあればすぐにかつつける、しょうぼうしよは大いそがしです。人だすけができてうれしいけど、おなかはベコベコ。しょうぼうしさんたちは、おやつを食べられるかな?</p>
としょ	<p>「くもの糸」</p>  <p>芥川 龍之介 作 深見 春夫 絵 宮川 健郎 編 岩崎書店</p>	<p>じごくにおちたカンダタは、ほかのわるい人たちといっしょに、ちのいけにういたり、しずんだりしてました。そこに空からくもの糸がたれてきて、みんなわれさきにとむらがりますが…。</p>